

第2分科会②

協議題 自ら未来を拓く力を育む教育を確かなものとする学校経営の評価・改善  
研究テーマ 学校評価の在り方と評価を生かした学校経営の改善

提案者 鹿児島県伊佐市立田中小学校 校長 谷口 善郎

1 はじめに

平成22年改訂の「学校評価ガイドライン」によれば、学校評価の目的は①教育の質の向上、②信頼される開かれた学校づくり、③学校運営の改善の三つである。

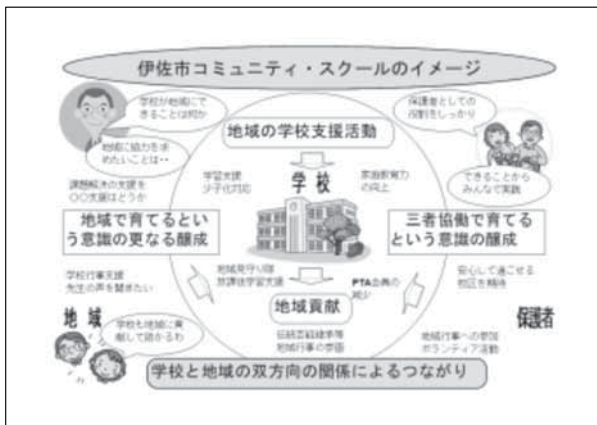
これらの目的を達成するための学校評価は、学校自身が行う自己評価を核として、保護者や地域住民等による評価（学校関係者評価）と外部の専門家による専門的観点からの評価（第三者評価）で構成されている。このうち第三者評価については学校及び設置者が必要と認める場合に実施されるものである。

ここでは、学校経営の改善に向けて、自己評価の在り方や評価の生かし方、また保護者等の学校関係者による評価と連携の在り方について本校における取組を紹介する。

(1) 地域の特性

旧菱刈町と大口市が合併し伊佐市となったが、旧菱刈町の1中学校と5小学校のつながりは現在も深い。菱刈中学校区小・中一貫教育推進委員会をはじめ、6校PTA活動など、菱刈中学校区での実践が行われている。

また、伊佐市は学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を導入しており、市を挙げて学校と地域が一体となった教育を推進している。



(2) 学校の実態

本校は、児童数88人、教職員数13人の小規模校である。特色ある活動として、5・6年生が子供太鼓を昭和57年から代々受け継ぎ、地域行事等で披露するなど、郷土に根ざした教育を目指している。

2 主題設定の理由

学校が目指す、学校像・子供像に近づくためには、常に学校経営の評価・改善に取り組み、より充実した学校経営に努める必要がある。そのためには、学校評価の目的やスケジュールを評価者である職員をはじめ外部の評価者等にも十分に理解させる必要がある。

これまで、本校では児童・保護者へのアンケートや、教職員による自己評価、学校運営協議会委員による評価を実施し保護者や地域と一体となった学校づくりを進めてきた。

具体的には、外部評価（児童・保護者アンケート）と教職員による自己評価を学期に1回ずつ年3回実施している。児童は「ふりかえりカード」として、生活・授業・家庭の3項目と自由記述で評価する。保護者は、児童について・学校について・一事徹底等について・メディアコントロールについての4項目と自由記述で評価する。教職員の自己評価は学校教育目標に沿って①重点課題・実践課題、②一事徹底等、③業務改善の三つについて評価するとともに、課題と改善策を記述し、次学期・次年度の改善に繋げてきた。

また、学校運営協議会においては会議の開催時に教育活動の報告や授業参観等を通じた感想や意見・要望等を集約し、その後の教育活動に生かしてきた。

活用用		令和2年度 3学期 よい子の苗甲っ子ありかえりカード ( )年 名前 ( )				
項目	番号	評価内容	4	3	2	1
生活	1	自分から大きな声であいさつをしていますか。				
	2	名前を呼ばれたら、「はい」と元気よく返事をしていますか。				
	3	友達を呼ぶときは、「くん」「さん」をつけていますか。				
	4	友達にやさしく、親切にしていますか。				
	5	約束を守ることができるでしょうか。				

評価用		教育活動に対するアンケート				
項目	番号	評価内容	評価			
児童について	1	あなたのお子さんは、健康で最後までがんばるたくましい子供に育っていると思いますか。	A	B	C	D
	2	あなたのお子さんは、友達を思いやり、なやみよく助け合う気持ちを持っていると思いますか。	A	B	C	D
	3	あなたのお子さんは、進んで勉強し、よく考える子供に育っていると思いますか。	A	B	C	D
学校について	4	本校は、地域にふさわしい学校になっていると思いますか。	A	B	C	D
	5	本校は、美しく整備され、安心・安全な学校になっていると思いますか。	A	B	C	D

自己評価		学校評価(教職員)			
1 重点課題・実践課題について					
重点課題	実践課題(評価項目)	1E	1B	1H	1F
学力・乳育の促進	1 ぬあてが明確で、運動量が増えられた教材授業の実践に努めたか				
	2 一貫運動として、なれど運動を推進したか				
心の教育の推進	7 家庭と連携して基本的な生活習慣の定着に努めたか				
	8 学級活動、道徳科の授業等を通して規範意識の育成に努めたか				
学力向上	13 基礎的・基本的な内容の定着を図るための実践を行ったか				
	14 論理的思考を育成するための実践を行ったか				

2 一事徹底・一貫一研書・一貫一運動について					
評価項目		1E	1B	1H	1F
一事徹底	元気な声であいさつができるよう指導に努めたか				
一貫一研書	道徳力育成のための実践事項に積極的に取り組んだか				

3 業務改善について					
業務改善					

しかし、「子供と保護者のアンケート項目の関連性などの整理がなされておらず結果が見えにくい」「兄弟が在籍する場合複数の児童に対し一枚のアンケートで回答するのは難しい」「自己評価と外部評価（アンケート）とがリンクしておらず結果を十分に生かせない」など、課題が見えてきた。また、学校運営協議会における評価についても、評価項目や評価基準等が明確でなく、会議の度に話題となる項目に対する評価となっており、評価そのものが形骸化してきた面もある。

そこで、真に学校経営に生かすことのできる学校評価はどうあればよいかを明らかにするために本テーマを設定した。

### 3 研究の視点

- (1) 成果を共有するための評価項目等の見直し
- (2) 「学校運営協議会制度」による評価
- (3) 評価結果のフィードバック

### 4 研究の実際

- (1) 成果を共有するための評価項目等の見直しについて

#### ア 重点目標の設定

これまでの課題として、それぞれの評価項目が整理されておらず、一体的な評価になっていなかったことから、学校経営の重点目標とそれにリンクした評価項目を設定した。

重点目標に沿って、児童・保護者アンケートの項目を整理し教職員による自己評価とリンクするように整理した。

児童用		1学期 田中っ子ふりかえりカード		評価内容			ふりかえり		
項目番号	評価内容	4	3	2	1				
1	給食は好き嫌いをしていないで、しっかり食べていますか。								
2	給食の量は、しっかり量がきかかっていますか。								
3	勉強や運動、係や委員会の仕事を最後までやり遂げていますか。								
4	「早ね・早起き・朝ごはん」ができていますか。								
5	テレビやゲーム、インターネットはルールを決めて守っていますか。								
6	友達との約束や学校のまわりを守ることができていますか。								
7	友達にやさしく、親切にしていますか。								
8	友達を呼ぶときは、「くん」「さん」をつけていますか。								
9	自分から進んで係や委員会の仕事、手伝いやそらじをしていきますか。								
10	通んで読書をしていますか。								
11	読書に体を向けて最後まで読書ができていますか。								
12	学習用品を忘れずに準備することができていますか。								
13	ゲームが鳴ったら、すぐに着席できていますか。								
14	毎日、しっかり宿題ができていますか。								
15	みんなに聞こえるような声で発言ができていますか。								
16	名前を呼ばれたら、「はい」と元気よく返事をしていますか。								
17	相手より先に気持ちのよいあいさつができていますか。								
18	家でも家族の読書をしていますか。								
19	朝の体操つくりで「なわとび」などの運動をしていますか。								

○ 先生におねがいしたいことがあったら書きましょう。

#### 保護者用

項目番号	評価内容	評価			
		A	B	C	D
1	あなたのお子さんは、好き嫌いをしていないで、食事をとることができていますか。				
2	あなたのお子さんは、給食や昼食時にしっかり量がきかかっていますか。				
3	あなたのお子さんは、勉強や運動、手伝いを最後までやり遂げることができますか。				
4	あなたのお子さんは、「早ね・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いていますか。				
5	あなたのお子さんは、テレビやゲーム、インターネットはルールを決めて守ってテレビ視聴やゲームをしますか。				
6	あなたのお子さんは、学校や交通のまわりを守ることができていますか。				
7	あなたのお子さんは、友達にやさしく、親切にできていると思いますか。				
8	あなたのお子さんは、自分から進んで手伝いや掃除をしていますか。				
9	あなたのお子さんは、忘れ物をしないように学習用品の準備を自分でするができていますか。				
10	あなたのお子さんは、通んで読書をしたり、通んで宿題に取り組みしていますか。				
11	あなたのお子さんは、元気な声で返事やあいさつができていますか。				

○ その他、学校に対するご要望・ご意見等ありましたら、ご自由に書き添ってください。

#### イ 評価方法の工夫

- ・ 外部アンケート

保護者によるアンケートの回答率を上げるため、また、学年毎の傾向を明確にし、自己評価に生かすとともに、今後の指導に役立てるために Google フォームを使って実施した。

令和4年6月17日  
伊佐市立田中小学校  
校長 嶋田 忠

教育活動の発展に係るアンケートについて（お願い）

経営の視点、保護者の皆様におかれましては、ますます御理解とお協力申し上げます。さて、本日は、保護者の皆様からアンケートを実施しております。お子様の保護者様からのご意見を、本校の教育活動に役立てています。つきましては、下記のとおりお願いいたしますので、御協力をよろしくお願いいたします。

- 実施期間 令和4年6月17日（金）から令和4年6月17日（金）まで  
※ 各学年1週間実施予定です。
- 対象者 本校保護者  
※ 学年ごとの授業に対してお答えください。（個人は、本校に通うお子さんが二人の場合、二人分入力します。）
- 実施方法  
① Google フォームによるアンケート  
② 各自のQRコードを読み取る。  
③ 学年毎のアンケートに回答する。  
④ 日頃のアンケートに回答する。  
⑤ 「返信」ボタンを押せば、返信は、メール、フリックする。  
※ 本校に通うお子さんが一人の場合、ここで終わりで、ブラウザを閉じてください。二人以上の場合は、返信してください。  
⑥ 返信の返信を待たずにアンケート、また、フリックする。  
※ 本校に通うお子さんが二人以上の場合は、返信を繰り返してください。  
※ 印刷用紙によるアンケートも希望される場合、お申し渡しが、学校へ御連絡ください。
- アンケート項目  
以下の5項目がGoogleフォームで実施になります。  
4～11までお答えください  
評価の仕方 3～5はできるだけ高く  
4は高く  
1～2はできるだけ低く  
1～2はできるだけ低く

項目番号	評価内容	評価			
		A	B	C	D
1	あなたのお子さんは、好き嫌いをしていないで、食事をとることができていますか。				
2	あなたのお子さんは、給食や昼食時にしっかり量がきかかっていますか。				
3	あなたのお子さんは、勉強や運動、手伝いを最後までやり遂げることができますか。				
4	あなたのお子さんは、「早ね・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いていますか。				
5	あなたのお子さんは、勉強やゲーム、インターネットはルールを決めて守ってテレビ視聴やゲームをしますか。				
6	あなたのお子さんは、学校や交通のまわりを守ることができていますか。				
7	あなたのお子さんは、友達にやさしく、親切にできていると思いますか。				
8	あなたのお子さんは、自分から進んで手伝いや掃除をしていますか。				
9	あなたのお子さんは、忘れ物をしないように学習用品の準備を自分でするができていますか。				
10	あなたのお子さんは、通んで読書をしたり、通んで宿題に取り組みしていますか。				
11	あなたのお子さんは、元気な声で返事やあいさつができていますか。				

## 伊佐市立田中小学校グランドデザイン

学校教育目標 令和5年度版  
たくましい心と体をもち、仲よく助け合い、進んで学習するかしこい子どもの育成

目指す子ども像  
校訓（誓い）「わたしたちは仲よく助け合い、深く考え、よくがんばる子どもになります」  
○ 健康で最後まで頑張るたくましい子ども **たくましく**  
○ 仲よく助け合い、思いやりのある子ども **なかよく**  
○ 進んで学習するかしこい子ども **かしこく**

目指す学校像  
1 活気にあふれた明るい学校  
2 美しく整備され、安心安全な学校  
3 地域に開かれ、保護者や地域に信頼される学校

目指す教師像  
1 使命感をもち、常に子どもと共にある教師  
2 指導力向上のために自己研鑽に務める教師  
3 人とのつながりを大切にしている教師

地域に愛される学校 信頼される教師

基本方針  
1 人権尊重の精神を育む教育の推進  
2 全職員一体となった学校教育目標の具現化のための教育の推進  
3 校区の歴史や伝統の尊重と郷土に根ざした教育活動の実践  
4 保護者や地域に信頼され、責任を果たす「地域と共にある学校」づくり

学校経営の重点  
1 学習指導の充実 2 特別支援教育の充実 3 生徒指導の充実  
4 人権向上教育の充実 5 道徳教育の充実 6 保健・安全・体育指導の充実  
7 環境教育の充実 8 職員研修の充実 9 開かれた学校づくり  
10 IGGIAスクール構想の推進 11働き方改革の浸透化



## ・ 自己評価

児童や保護者によるアンケート結果を集約した後、その結果を受けて教職員による自己評価を行った。

- 6月中旬 保護者へアンケート依頼
- 下旬 アンケート回収(自動集計)
- 7月上旬 児童によるふりかえり  
集計・考察  
クロス集計・考察
- 7月中旬 自己評価

評価シートは、保護者同様 Google フォームを使用し、集計作業の効率化を図っている。集計後、学期末の職員会議で結果について協議した。

その際、外部アンケートをクロス集計した結果をもとに、

- ①保護者と児童の評価に大きな差異が見られる項目
- ②評価の低い項目
- ③前回の評価と大きな変化が見られる項目
- ④自由記述の中で学校全体に関わる内容

に着目し考察を加えながら全職員で結果を共有した。また、改善策について、すぐに取り組めるものについては共通実践事項を確認し次学期から取り組むことにした。

なお、前出の菱刈中学校区小中一貫教育推進委員会の共通実践事項についても評価シートに位置付けた。

## (2) 「学校運営協議会制度」による評価

本制度は平成 29 年度からスタートし令和元年度からは市内の全小・中学校で実施されている。この取組が深化し定着することで、外部評価の充実につながると考える。

(評価の流れ)

- 5月 第1回学校経営方針説明等
- 7月 第2回現状等の説明 評価の確認
- 9月 第3回 " 評価手順等の確認
- 11月 第4回 " 評価報告書の提出
- 2月 第5回 " 評価結果の反映

次年度経営方針等上記のとおり、年間5回の授業参観と協議を約 90 分程度実施した。第4回目に自己評価等の結果を説明するとともに改善に向けた取組を説明した。その後、委員による評価をお願いし次年度の学校経営方針に反映させた。

## (3) 評価結果のフィードバック

### ア 保護者へのフィードバック

保護者に向けては、児童のふりかえり結果と表裏にして学級PTAで報告した。表裏にすることで、児童と保護者、また、学年により結果に差があることも分かり、課題を共有しやすく今後の取組の視点も明確になるからである。

また、寄せられた要望については緊急の度合いに応じ、すぐに改善が必要なことについては、学級PTAで結果を報告する際に、方針を伝えたり、話し合いをお願いしたりした。個別の対応が必要な場合は、日時及び対応者を決めて組織としての対応を心がけた。

### 意見要望 (例)

◇歩道の白線が薄く登下校が心配

↓学級PTAで報告

(現場確認後市役所担当課へ連絡)

◇靴や靴下等服装への要望

↓個別対応

(学級PTA後校長室で説明)

◇行事変更等の案内は早めに知らせてほしい

↓学級PTAで報告

(感染症対策等への理解を求め文書・メール等連絡方法の変更について説明)

保護者にとっては、意見を伝えたことがどのように受け止められ、教育活動にどう反映されたのかが一番気になる部分だと思われる。よって、できるだけ早く、誠実に対応し学校への信頼につなげるようにした。

### イ 部会等による改善のための取組

学期末に取りまとめた評価結果について長期休業中に、各部会で具体的な改善策を検討し次学期はじめの職員会議で共通理解を図るようにした。本校は小規模校のため、教科・領域等部会で検討しているが、それぞれの部会では、重点目標に沿って、①気力・体力の向上、②心の教育の推進、③学力の向上の3つの視点から、原因等の分析や改善策の立案を行った。

さらに、部会で立案されたものを教務・教頭がとりまとめ企画委員会で重点化を図った。校長は学期はじめの職員会議で学期の重点目標を示した。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ア 児童や保護者によるアンケートの評価項目を見直したことで、児童と保護者の評価の相違が把握しやすくなったことから、改善に向けた具体策が立てやすくなった。また、外部評価と自己評価をリンクさせたことで、目標に対する課題が明確になった。
- イ 保護者アンケートを Google フォームを使って実施したことで、回答率が想定以上のほぼ 100%となった。また、児童毎に回答していただくことにしたので、学年間の相違も見え、各学級での指導にも役立てられた。
- ウ アンケート結果へのフィードバックを緊急の度合いに応じて速やかに対応したので、保護者からの信頼感も高まり、諸活動の改善にもつながった。
- エ 学校運営協議会制度による評価について、評価項目とスケジュールを明確にしたことで学校評価の位置付けが明確になった。
- オ 評価結果に対する改善策について、視点を決めて協議させることで、具体的な取組を全校で実践できる態勢ができた。

### (2) 課題

- ア 保護者に対するアンケートに、評価の視点や関連情報（学習面や生徒指導等に関するデータ等）を示すことで、評価の妥当性を高める必要がある。
- イ 学校運営協議会制度による評価について、評価の時期が学期途中となってしまう評価結果を共有する時間が十分確保できない。自己評価との連動について工夫する必要がある。
- ウ 学校評価の結果の公表についてはさらに工夫し、学校・家庭・地域の連携・協力を高めていくことにつなげたい。

## 6 おわりに

学校評価は地域と共にある学校づくりを推進し、保護者や地域、学校の児童や教職員の状況を踏まえた開かれた教育課程編成を一層推進するものである。適正な評価のためには日頃から保護者や地域に向けて、学校の情報を積極的に提供していくことが重要である。

これからも、学校評価を核として教職員・保護者・地域をつなげることで「地域とともにある学校」としての教育力を高める取組を続けていきたい。